



夢よ育て・元気と笑顔が集う東白川
東白川村議会活動情報誌

くらしと議会

発行 東白川村議会
編集 東白川村議会報編集委員会
住所 岐阜県加茂郡東白川村
神土 548 番地
電話 0574 - 78 - 3111

安心して暮らせる東白川を目指して

平成二十年度予算二十八億六千四百四十万円を可決

平成二十年第一回定例会が、去る三月六日に開会し、条例案件十八件、予算案件十四件、人事案件六件など四十一件を審議し、いずれも原案どおり可決、十二日に閉会しました。
また、「道路特定財源制度の堅持と関係諸税の暫定税率延長に関する意見書」が提出され、全会一致で可決しました。
今回は、定例会に出された予算関連質問をご紹介します。

新規事業の紹介

- ◇消防ポンプ自動車の更新 千七百十六万円
- ◇パッカー車の更新 八百二十万円
- ◇乳幼児等医療費助成義務教育修了までに拡大 三百六十四万円
- ◇保育園空調設備改修事業 百五十二万円
- ◇小学校大規模改修事業（実施設計） 千五十万円
- ◇陰地急傾斜地崩壊対策事業負担金 二百万円
- ◇河鹿荘及び旧消防詰所解体工事 千百万円

予算関連質疑 抜粋

問 安江利英議員

- ①加子母の合板工場について
- ②CATV特別会計化について

平成20年度会計別当初予算		
会計名	予算額	
一般会計	17億3,500万円	
特別会計	国民健康保険特別会計	3億5,840万円
	老人保健特別会計	3,660万円
	介護保険特別会計	2億3,480万円
	簡易水道特別会計	1億3,870万円
	下水道特別会計	2,090万円
	国保診療所特別会計	3億200万円
	後期高齢者医療特別会計	3,500万円
計	11億2,640万円	
合計	28億6,140万円	

③予防接種の助成について

答 安江眞一村長 合板工場については、今後、県や中津川市から影響等を伺い、逐次お知らせをします。次に、CATVの特別会計化ですが、今後、詳しく精査をします。議員ご指摘の収支の中身については公表可能と考えますので実施を検討したいと思えます。

問 熊澤光介議員

村債の中で起債条件や借入利息等の違いについて

答 榎本総務課長 過疎債は、この事業が適当か否かの起債メニューにより決定しています。この点を踏まえて、この事業はこの起債が妥当というものを借りています。利率については、

問 今井保都議員

- ①各種団体への補助金支出と指導助言について
- ②課設置条例の中で病院事務局長の位置づけについて

答 安江眞一村長 各種団体への補助金は、村からの意見や相談も行っている



新年度予算細部説明（全協）

ます。また、交流事業で行っているイベントもそれぞれ行政が関与し指導しています。

答 今井参事 地域医療センターは、親しみやすさを考慮した対外的な呼称で、条例では国保診療所です。診療所の所長が地域医療センター長となり、保健・福祉部門と医療部門を統括します。事務局長については所長直轄で事務の統括です。

問 安倍 徹議員

現在、村の建築業者と進められているICT事業を含め、事業に対する取り組みについて

答 安江眞一村長 この事業については、現在、総務課で取り組んでいます。現在、総務課で取り組んでいます。現在、総務課で取り組んでいます。現在、総務課で取り組んでいます。

問 安江祐策議員

現在水田転作物として大豆を奨励しているが、今後の取り組みについて

いては、現在考えていませんが、何か換金性の高い新規作物を導入するような場合は支援をしていきます。大豆が最もいいわけですが、反収が低いので、今後は栽培研究もしながら少しでも収量を上げていくよう努力していきます。

問 安江 浩議員

- ①大型災害に対応した訓練の実施について
- ②温暖化対策について

答 安江眞一村長 災害への対応は昨年度ハザードマップ等を作成し有事に備えています。村は阿寺断層も走り、山に囲まれており、いつ災害が起きてもお不思議ではありません。消防団も懸命に取り組んでいます。各集落も毎年訓練をしています。家族で緊張感を持って話し合うことも大切です。次に地球温暖化については、こんなことが地球温暖化にプラスになり、またマイ

議会活動の紹介

■村内視察 二月十四日、美濃東部農道トンネル残土処分地、大口地内崩壊現場等6カ所の視察を実施。
■議会・行政研修会 二月二十二日行政係、情報通信係と研修会を実施。

平成二十一年第一回臨時会を開会

四月二十八日、臨時会が招集され、専決処分三件、補正予算二件、条例改正等を審議し、同日閉会しました。臨時会では私約交代が行われ、左記の通り役職が替わりました。

就任のごあいさつ

議長 今井保都

この度、議長に推挙していただきました。もとより浅学非才な私ではございますが、一生懸命努めますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。村では相変わらず厳しい財政運営が続きますが、チェック機能としての議会活動が重要なと考えます。議員数を七名に削減した中で、緊張感を持って村民の皆様への第一に考え、村民の立場に立った判断を何よりも大切に村政に方向付けていくよう努力してまいります。

皆様のご意見を議会に反映できるように、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

道路特定財源制度にかける意見書を提出

三月定例会では、道路特定財源の確保に関する意見書が提出され、全会一致で可決しました。道路特定財源に關連する村の歳入は、平成十八年度で約五千四百万円。このうち暫定税率部分は約二千四百万円余であり、この財源が無くなることは死活問題です。意見書は、衆参議長、総理大臣を始め四人の閣僚大臣に発送しました。

《平成20年東白川村議会構成》

議長 今井保都
副議長 安倍 徹（議会報編集委員長）

【総務常任委員】
委員長 安江 浩
副委員長 安江祐策
委員 安江利英 委員 服田順次
委員 今井保都 委員 安倍 徹
委員 熊澤光介（議会代表監査委員）

【議会運営委員会】
委員長 安江祐策
副委員長 安江 浩
委員 安倍 徹

一般質問

第1回議会定例会で、3人の議員から村政全般についての一般質問が行われました。その一部を紹介します。

安江利英議員

・加子母地内に建設予定の合板会社について

中津川市加子母地内に誘致が決定した大手合板工場について、今後の対応を伺います。

この件の波及効果について良い面では、建設工事に係る土木・建築業界への効果や地元雇用も予定されており、経済効果が期待できると思います。この点についての方策を伺います。また、悪い面として排水が白川へ流入するため、環境面について考えを伺います。

また、今回情報の入り方が大変遅く、国・県からの情報は、行政として少しでも先取りし、把握するべきではないでしょうか。村長は村の最高執行権者として村益のため最大の努力をされるべきですので、今後どう対処されていくのか伺います。

答弁(安江村長)

この合板会社は、古田県知事とセイホク株式会社の社長との間で話が進んだと伺っています。この会社が傘下するグループ企業は五十一社、社員二千六百人、主要十二社の売り上げ高、約一

千億円を誇ります。

事業期間は本年から二年間の予定で、二十二年後半には操業開始の予定です。事業地は、中津川市加子母万賀地内であり、事業主体は、セイホク株式会社とグループ企業、県内林業関係団体とで設立する事業協同組合です。予定組合員はセイホク(株)、セイホクグループ企業から四社、県森林組合連合会、県森林協会の七社です。事業費は六十五億円、支援策として農林水産省、林野庁等の地域材活用大型合板工場支援制度を活用し、事業費の約二分の一程度の支援を予定しています。

県の役割として、原木安定供給の仕組みづくりがあり、中津川市の役割は、道路整備、企業立地奨励金、雇用促進奨励金等の支援が行われます。

近隣に大規模工場ができることは良いことですが、ご指摘の環境問題を含めた操業後についても重要です。森林組合も県森連の一員であり、情報は逐次入りますので、各方面に働きかけて波及効果もたらされるように努力したいと思えます。

日本初の国産材合板工場であり、原料供給や従業員の斡旋など、できることは協力したいと思えます。また、国産材に日が当たり始めたところ、木材の需要や価格に良い影響があることを願っています。ご指摘のあった、操業後の影響については、関心のあるところですが、今後見守りながら、働きかけるべきは働きかけて、村に良い影響があるように願っています。

安倍 徹議員

・道路行政の進め方について
・子育て支援について

これまで山間地では、地方を

よくするために道路を作ること、を最重要課題と考え、さまざま努力をしてきました。そうした経緯があり、県道白川・加子母線二車線化は実現しましたが、佐見・東白川間のアクセスやまだ計画路線すらできていない濃飛横断自動車道の下呂・中津川間など必要な道路はたくさんあります。また、平バイパスの歩道ですが、高齢者が大変増え、夏には釣り客も増えます。こうした状況の中、工場誘致となれば、大型トレーラーが頻繁に通ることが予想されます。道路行政の進め方について村長の考えを伺います。

次に、子育て支援についてですが、妊婦検診の費用は健康保険対象外で全額自己負担です。そのため、二人目、三人目ともなれば兄弟の保育費用等も加わり、経済的負担が大きくなります。そこで村の妊婦検診助成状況について、内容を伺います。

答弁(安江村長)

村の移動手段は自動車しかありませんので、道路は最低限必要な社会資本です。白川・加子母線が二車線となりましたが、これで一段落とは考えていません。東白川・佐見間の国道はもとより、遅々として進まない県道を一日も早く改良しなくてはなりません。橋やカーブを改良し、安全な道路を確保するため、近隣市町とも連携し進めたいと考えています。また、濃飛横断自動車道は下呂から西は着工していますが、下呂から中津川間は調査区間も採択されています。この地に工場誘致がされ、通行量が増えることが予想されれば採択が期待できるのではないかと考えています。

次に、妊婦検診についてです

が、昨年県健康福祉部から妊婦一般健康診査券を増やすよう指導がありました。検診料は、最も高いもので一万五千円以上かかります。あと三回ほどの検診は五千円程度です。今まで三回分が無料でしたが、倍の六回まで無料にすることになりました。なるべく高い検診から利用いただく経済的には有利であると思えます。特に、母子センターでの検診料は一律二千円です。診察券は、診察料の高い時に使っていただき、あとの検診は母子センターで行っていただきたいと考えています。

今井保都議員

・農地活用について
・「ふるさと納税」について

最初に農地活用について伺います。このところ食に対して考えさせられる事が相次いで起きています。食料自給率が四〇割以下にもかかわらず米作りは減反指導がされています。国では農地の集約を検討していますが、村はどう考えているのか伺います。また、最近はいち燃料源として食料が注目されています。休耕田を有効活用し村内外の方に野菜づくりを行ってもらえようPRしてはどうかと考えます。次に、ふるさと納税制度について伺います。現国会で法案が成立するとふるさと納税が始まります。これは住所地以外の自治体に寄附をする制度で、寄附する先はその本人の自由です。全国に村をPRすべきだと考え

答弁(安江村長)

まず、農地活用についてです。多年にわたり米の生産調整が行われ、農家のストレスはいよいよ高まっています。生産調整は今年も水田営農所得安定対策として行われる予定です。国では農業・農村を守るため、補正も含め一千百一十億円の米関係予算を決定しました。これは国の方針ですが、村の農業や農地を将来どうすべきかは放置できない問題だと考えています。外国産の食品が問題となり、日本の食料自給率が問われているのがチャンスととらえ、村の農地や農業技術、そして人材を生かし、村内で農産物を生産し販売していく仕組みを考える必要があります。村には新世紀工房、農業サポート部があり、機械化営農を進め、農地の荒廃を食い止めています。こうした活動を最大限に活用しながら農地の有効活用を模索していきたい

環境の未来

先日何げなく白川を眺めていた時のこと。誰かが投げ入れた小石にそれまで何も見えなかった川底から餌と間違えたのか魚がぞくぞく現れました。何故かと思っただけでよく見ると、川床に昔ながらの松の木と石で造った沈床が長々と組んである。そのとき「ああ、こういう昔ながらの工法が魚類の棲み家や隠れ家となっていて、いろいろな意味で環境や生態系の維持に貢献しているんだなあ」と感じました。目先を変えて人間社会を見てみると、便利になった代償とし

と考えています。

手始めに新年度は人的支援を考えています。特に荒廃農地については、本年が農業委員選挙の年ですので、新しい委員の皆さんをはじめ、村づくりの関係者、営農組合長さん等々の皆さんの知恵をいただきながら農業サポート部で、これまでの事業以外のこともやっていただきたいと考えています。

次に、ふるさと納税制度についてですが、政府も寄附をされた方には個人にかかる住民税の控除の拡充を行います。村ではふるさと納税はもちろんです。独自に「東白川村ふるさと納税」や「ふるさと納税」を制定し、広く全国から寄附金を募りたいと考えています。ご指摘のあった、いかに全国の皆様を知っていたかにかについては、今後プロシエクトチーム等各種の会合等で、いろいろな切り口で考えながら、さまざまな形で全国に発信し、東白川を知っていただき、そしてご協力をいただくことを考えています。

て我々が自然環境に対して行ってきた環境破壊等、自分たちが次世代の子や孫たちのために、何をなすべきか、もう一度原点に戻って、真剣に考え提案していかなければならないのではないのでしょうか。また、都市集中型社会となり、荒廃が進む中山間地を考えた時、農林業の多面性を十分に理解しながら地域を守っていくことが我々に託された責務であると考えます。五十年、百年先にゆったりとした癒し空間としての村を残していくために、いろいろな取り組みを行っていかねばならない時期が来ています。

文責：安江利英